

和の光

宝塚市立西谷中学校



■阪神・淡路大震災を振り返る～中学生の手記を通してⅡ～

平成7年1月17日の午前5時46分、壊滅的な地震が神戸市をはじめとする阪神・淡路地区を襲いました。この地震で、かけがえのない命を奪われた人5501人、不明者2名、被災地で不自由な生活を送っている人21万人（平成7年4月6日現在）。

神戸市では154人の小・中学生が尊い命を奪われました。また、一瞬にして親やきょうだいを失った人もいます。私たちは決してこの災害を風化させてはならないと思います。阪神・淡路大震災から25年目となる今、当時の震災を経験した中学生の記録作文集から2つの手記を紹介したいと思います。ぜひ、最後まで読んでいただき、「命の尊さ」「日常生活の有難さ」などについて考える機会にしたいと思います。

省略

省略

■防災学習（避難訓練・実技講座）



安全を確保しながら避難



避難経路には転倒物が散乱



安全が確保できる経路から避難



避難完了まで3分50秒

1月16日に防災学習（避難訓練と実技講座）を行いました。今回の避難訓練は地震が発生したと想定して実施しました。10時40分に放送で地震速報が流され、まずは揺れがおさまるまで身体の安全確保を行い、その後は放送の指示に従ってグラウンドへ避難しました。放送による避難指示から避難・点呼完了まで3分50秒でした。慌てずに安全を確保しながら避難することができていたと思います。

避難訓練に続き、認定こども園・小学校・中学校合同で阪神・淡路大震災等で亡くなられた方々へ黙とうを行いました。その後、地区ごとの防災班に分かれて「防災スリッパ」づくりに取り組みました。



阪神・淡路大震災をはじめ震災で亡くなられた方々へ黙とう



中学生がリーダーです



防災班の顔合わせ



中学生が小学生に優しく指導します



生徒と先生で協力してつくります



防災スリッパの出来具合に満足